



Vol 1 (2021年2月)

発行 伊丹市立幼児教育センター

★伊丹市立幼児教育センター通信「ときめき ひらめき」の発行に寄せて

伊丹市の幼児教育をより一層充実させるために、「伊丹市立幼児教育センター」が開設され、はや一年が経とうとしています。今年度は市内の就学前施設におかれましても、コロナ禍における教育・保育の進め方検討や保護者への説明などに追われた年度でもあったかと思えます。

幼児教育センター事業の一つ「アドバイザー訪問」では、4名のアドバイザーが市内の就学前施設を訪問し、各園における教育・保育のあり方など様々な話を聞かせて頂きました。その中でも、コロナ対策に関するお問い合わせが多く、保護者への対応や予防対策の方法について多数相談がありました。実際に訪問すると、各園の先生方が試行錯誤しながらとても細やかにコロナ対策を実施されている事に驚きました。昼食時の手作りパーティーや読み聞かせ用シールド、ソーシャルディスタンスを子ども達にわかりやすく絵表示したもの等々、市販の物以上の丁寧な配慮が保育室のあちこちで見られました。日々の保育でも、個々に応じて細やかに対応されている先生方の心もちが、コロナ対策でも活かされていると感じました。

今後も引き続き、新型コロナウイルスの影響は続くと思われませんが、感染状況や国の動向などを常に加味しながら、市内就学前施設 86 施設が協力し、情報共有し合い助け合いながら、コロナ禍を乗り越えていきたいと思えます。

★幼児教育研修会



令和2年度(2020年度)幼児教育研修会に、多数ご参加いただきましてありがとうございました。全12回のべ508名の先生方に参加いただきました。令和3年度(2021年度)は、さらに保育現場に寄り添った内容と、先生方のご要望にお応えできるような研修会を開催できるよう努めますので、皆様のご参加をお待ちしております。今後は、オンライン研修が増加します。詳しくは直接、幼児教育センターまでお問合せください。



【研修風景】

また、幼児教育センター事業は、文科省の「幼児教育推進体制の充実・活用強化事業」の採択を受け、より一層の研修や研究の充実を図ってまいります。令和3年12月には「伊丹市幼児教育シンポジウム」の開催を予定しており、神戸大学の北野幸子先生や玉川大学の大豆生田啓友先生を招聘し、伊丹市の幼児教育の今と未来についてご教示いただきます。他にも、楽しいお二人と伊丹市に縁のある方々とのディスカッションもありますので、どうぞお楽しみに。(※コロナ感染症状況により変更になる場合があります)

★幼児教育アドバイザー訪問

令和2年度(2020年度)幼児教育アドバイザー訪問件数は約400件でした。今年度の活動内容は、主に施設長より施設案内や園の方針をお話いただきました。他にも相談内容として、園運営に関する

る事(コロナ対策含む)、子どもの発達について、保護者対応について、職員について等々多岐にわたる内容でした。令和3年度(2021年度)も引き続き訪問させていただき、保育内容や園内研などのご相談をいただく中で、就学前施設と幼児教育センターがさらに関係性を深め、アドバイザーとして各園の幼児教育の充実に貢献させていただけたらと思います。オンライン訪問も実施しておりますので、詳しくは幼児教育センターホームページをご覧ください。



【アドバイザー訪問風景】



★研究会

公立保育所(園)、こども園、幼稚園では、「幼小接続」「保育環境」「子どものよみとり」等の研究を行っています。各ブロック拠点園で保育を広く公開することで、多くの先生方にご参加いただき、共に実践を学び合える機会として計画しておりました。今年度はコロナ禍の為参加が難しい状況でしたが、令和3年度(2020年度)は、各ブロックの就学前施設にご案内を送付いたしますので、是非ご参加下さい。

★家庭教育・子育て支援

令和2年度(2020年度)子育て支援事業として「出前講座」を5回実施しました。内容は、未就園児の保護者の方を対象に、次年度に保育所(園)・こども園・幼稚園のどこを選択して、どのように手続きを踏めば良いかななどの説明や、伊丹市教育ビジョン「愛情」「自然」「ことば」について詳しくお知らせいたしました。講座以外でも、保護者から幼児教育センターへ直接、子育てについてのご相談が60件ありました。今後も、市民の皆様からの要望があれば「出前講座」を承りますので、お知らせください。他にも、公私立問わず、幼児教育センターへ専門書を借りに来られる先生方が多く、大変嬉しく思っております。新刊も随時購入しておりますので、市内就学前施設で保育者として働かれている先生方は、気軽にお立寄りください。

★おススメ保育専門書

「10の姿で保育の質を高める本」風鳴舎 汐見稔幸 中山昌樹 著

*これからのAI社会を生きる世代に必要な力、それは「10の姿」です。10の姿の理解や保育内容に悩んでいる方におススメです。



「あそびから生まれる動的環境デザイン」学研 大豆生田啓友 著

*保育室の環境構成の充実を目指している先生、必見です。環境を通して遊び込むことのヒントが具体的に紹介されており、子どもの「主体的・対話的で深い学び」を考える際や、環境を再構成する際におススメです。



★あとがきコラム

STEM(ステム)教育という言葉が最近よく聞くようになりました。乳幼児期から、自然科学や社会科学への興味を持ち、自ら様々なことに取り組み、他と協力して新しいものを創造することに注目した教育・保育です。感動、不思議、好奇心、探求心など、子ども達の周りには、ときめきとひらめきが溢れています。私たち保育者も、ときめいて、ひらめいた保育を展開していきたいですね。



伊丹市では、3つのキーワードで乳幼児期の子どもの育ちと学びを支えていきます(伊丹市幼児教育ビジョンより)